

長崎市教育大綱

平成 28 年度（2016 年度）～平成 32 年度（2020 年度）

平成 29 年 1 月

長崎市

はじめに

グローバル化や情報通信技術の進展などにより世界全体が大きく変化する中、長崎市を取り巻く社会環境も、人口減少、少子化・高齢化の進展やライフスタイルの多様化等、急速に変化しています。

このような変化の時代を乗り越え、長崎のまちを次の時代に引き継いでいくためには、長崎のまちを構成する多様な主体が力を合わせて取り組むことはもとより、変化し続ける日本や世界の状況に柔軟に対応できるよう、次の時代を担う人材を育成する必要があり、教育の振興はその最も重要な役割を果たすといえます。

一方、子どもや子育て家庭を取り巻く環境も大きく変化しており、子どもの健やかな成長を妨げるようないじめや虐待等の人権侵害、子どもが被害者や加害者になる犯罪、貧困等、複雑化・深刻化する問題の解決をはじめ、不登校やひきこもり等、学校や社会と関わることに困難さを感じている子どもの支援のためには、福祉や子育ての分野に限らず、あらゆる分野が一体となって、子どもの成長を支えていくことが、これまで以上に必要となっています。

このような中、「地方教育行政の組織及び運営に関する法律の一部を改正する法律」が平成27年4月1日に施行され、地方公共団体の長は、地方公共団体の教育、学術及び文化の振興に関する総合的な施策の大綱（以下「教育大綱」という。）を定めることとされました。

現在、長崎市は、長崎市のまちづくりの指針である「長崎市第四次総合計画」に基づき、「個性輝く世界都市」「希望あふれる人間都市」という将来の都市像の実現をめざしており、未来の長崎を担う人材育成を積極的に進めるにあたり、長崎市における教育に関する方向性を明確にすることを目的として、「長崎市教育大綱」を策定いたしました。

「長崎市教育大綱」では、長崎市における生涯学習を含めたあらゆる世代に向けた教育政策の考え方を、未来を担う子どもや若者を主役として、「めざすすがた」により表現しており、あらゆる分野において、長崎市の関係部局と教育委員会をはじめ、学校、家庭、地域等の様々な主体がしっかりと連携して人材育成に取り組むことを示すことにより、長崎市における教育、学術及び文化の振興を推進していくこととしています。

目 次

はじめに	1
基本理念「長崎の未来を創るひとづくり」	3
ひとづくりの基本姿勢「つながりと創造で未来の長崎へ」	3
めざすすがた	
1 心身ともに充実し、自ら学び、考え、挑戦するひと	4
2 多様性を認め合い、思いやりの心を持ち、支え合って生きるひと	4
3 長崎を愛する心を持ち、世界に貢献するひと	5
4 被爆の実相を継承し、平和の実現に貢献するひと	5
5 地域を支え、未来へつなぐひと	6
大綱の期間	6
(参考資料)	7

基本理念

長崎の未来を創るひとづくり

異国情緒漂う独特の文化を持ち、長い歴史の中で様々な経験をしてきた長崎のまちは、それぞれの時代において、まちに関わる多くの「ひと」が創り、受け継いできたまちです。

これからも、長崎が希望に満ちた魅力あるまち、また、日本や世界に貢献するまちであり続けるためには、これからのまちを創り、次の世代にしっかりと引き継ぐことができる「ひと」を育むことが最も重要です。

そこで、長崎市の教育に関する方向性を示す教育大綱の基本理念を「長崎の未来を創るひとづくり」としました。

ひとづくりの基本姿勢

つながりと創造で未来の長崎へ

ひとづくりは、学校や行政だけでできるものではありません。多くの主体同士がつながり合い、個々では生み出せない大きな力や新たな発想を活かして取組みを進めることで、より大きな成果につなげることが期待できます。

長崎のまちが一体となって、一人ひとりに向き合い、個性や課題に応じたひとづくりに取り組みながら、長崎のまちを未来へと引き継いでいきます。

- (1) 学校・家庭・地域・行政等の様々な主体同士が、教育・福祉・子育て・平和等のあらゆる分野においてつながり合い、多くの市民が当事者として関わることで、長崎のまち全体が一体となったひとづくりに努めます。
- (2) つながりによって創造される力や発想を活かし、健やかな育ちや学びを阻害する要因を解消するとともに、新たな教育の機会や仕組みを生み出し、時代の変化に対応したひとづくりに努めます。
- (3) 育まれた人材が長崎のまちを支え、さらに次の時代を支える人材を育むことで、長崎のまちが未来へつながるひとづくりに努めます。

めざすすがた

1

心身ともに充実し、自ら学び、考え、挑戦するひと

社会環境が大きく変化し、複雑化、高度化する中、これからの社会を生きぬくためには、「確かな学力」「豊かな心」「健やかな体」の3つをバランスよく身に付け、社会的に自立する必要があります。

また、幼児期から生涯を通じて、広い視野と、自分の考えをしっかりと持ち、夢や希望に向かって挑戦する力や、自分で課題を見つけ、自分で解決する力を育む必要があります。

- (1) 基礎的な知識・技能や、それを応用するための思考力・判断力・表現力、主体的に学ぼうとする学習意欲を身に付けたひとを育てます。
- (2) 規則正しい生活習慣、食習慣や体力向上につながる運動習慣などを身に付け、心身ともに健やかなひとを育てます。
- (3) 自分の考えや問題意識を持つことで、自ら課題を見つけ、課題に対する最善の解決策を導き出せるひとを育てます。
- (4) 生涯を通じて、学び続ける意欲を持ち、実践していくひとを育てます。
- (5) 生涯を通じたスポーツ・レクリエーションや芸術文化に触れる体験などにより、豊かな心と健やかな体をもつひとを育てます。

2

多様性を認め合い、思いやりの心を持ち、支え合って生きるひと

ひとは誰もがかけがえのない存在であり、また、社会で生活していく上では、様々な個性、生き方、考え方をを持った人と関わる機会が数多くあることから、一人ひとりがお互いを認め合うことにより、人と人が絆で結ばれ、共に支え合って生きていくことが必要となります。

- (1) 命の大切さを実感し、自分のことも他人のことも大切にすることを育てます。
- (2) 自分とは異なる個性や生き方、考え方を認め、尊重できるひとを育てます。
- (3) 他人との信頼関係を築くことで、助け合い、支え合い、協働できるひとを育てます。

3

長崎を愛する心を持ち、世界に貢献するひと

海や山に囲まれた豊かな自然、出島に代表される海外との交流の歴史、和華蘭文化や世界遺産などへの関心を高め、郷土長崎に誇りを持ち、愛する心を育むとともに、次の世代にしっかりと継承していく必要があります。

また、日本だけでなく、他国の歴史や文化についても理解を深め、自ら進んで外国人と交流できる国際感覚を養い、長崎が持つ世界的な価値を発信するとともに、長崎にしかできない役割を果たすことで、日本はもとより、世界に貢献していくことが必要となります。

- (1) 長崎の豊かな自然や歴史、文化に愛着を感じ、次の世代に継承するひとを育てます。
- (2) 長崎が持つ世界的な価値や魅力を国内外に発信するひとを育てます。
- (3) 外国の文化や考え方を理解し、外国の人々との交流や共生を通して、社会に貢献するひとを育てます。

4

被爆の実相を継承し、平和の実現に貢献するひと

原爆被爆から70年が経過し、被爆者が減少する中、被爆体験を被爆者から直接継承することが難しくなっていることから、被爆の実相を正しく理解し、次の世代に確実に継承する必要があります。

また、世界中の人々の、核兵器廃絶や平和に対する考え方は様々であることから、平和の実現に向けては、それぞれの考え方を理解しながら、世界中の人々と対話することや、平和のメッセージを発信していくことが必要となります。

- (1) 被爆の実相や体験を学び、次の世代に伝えることができるひとを育てます。
- (2) 核兵器廃絶のメッセージを世界に向けて発信することができるひとを育てます。
- (3) 世界の現状を知り、平和とは何かを考えることができるひとを育てます。
- (4) 平和な世界の実現に向けて国、人種、宗教、文化の違いを認め、相互理解のもとに対話や議論をすることで、身近に信頼を生み出すことができるひとを育てます。

5

地域を支え、未来へつなぐひと

人口減少、少子化・高齢化の進展やライフスタイルの多様化等の影響により、私たちの暮らしにも大小様々な変化が起きていくことが予想される中、誰もが未来に希望を持ち、暮らし続ける魅力にあふれた長崎のまちであり続けるためには、環境の変化に対応しながら、それぞれの地域を支える人材の育成が不可欠です。

地域で育まれた一人ひとりが、自ら地域を支えるとともに、次の世代を担うひとづくりに努めることにより、世代を超えた地域の活性化につながります。

- (1) 様々な世代とふれあい、地域との関わりを大切にするひとを育てます。
- (2) 地域を守り、支える意識を持ち、自ら行動できるひとを育てます。
- (3) 次の世代を担う人材を育成することができるひとを育てます。

大綱の期間

長崎市第四次総合計画「後期基本計画」との整合性を確保するため、同計画の計画期間にあわせ、平成28年度から平成32年度までの5年間とします。

(参考資料)

長崎市教育大綱の位置付け

地方教育行政の組織及び運営に関する法律に基づき、すべての地方公共団体に、地方公共団体の長及び教育委員会により構成される「総合教育会議」が設置されることとなり、「教育大綱」を定め、又は変更する場合は、当該会議において協議することとされており、長崎市教育大綱は、長崎市総合教育会議における協議を経て策定しました。

現在、長崎市は、長崎市のまちづくりの指針である「長崎市第四次総合計画」のめざす将来の都市像の実現をめざしており、未来の長崎を担う人材の育成に向け、市長と教育委員会が、本市教育行政のめざすすがたや、教育政策に関する方向性等を共有し、連携を図るとともに、効率的・効果的に教育行政を推進していくこととしています。



